

## 第1部 計画策定にあたり

### 1 子どもの読書活動推進の背景

読書によって人は言葉を学び、表現力を高め、感性を磨き、創造力を豊かにしていきます。そしてまた先人の築き上げた思想や知識に触れることによって、考える力や情操を養い、人生をより深く豊かに生きる力を身につけます。

しかし近年コンピュータの驚異的な発達によってテレビ、DVD、インターネット、ゲーム、パソコンなどが子どもたちを取り囲むようになり、子どもたちは読書よりも直接的な刺激の強いそれらのメディアに引き付けられる傾向にあります。その結果、自分の感情を制御できない子どもやコミュニケーション能力の欠如した子どもが増加していると言われています。

この子どもを取り巻く生活環境の変化は最近社会問題として取り上げられているひきこもりやニート、またリストカットや自殺など、深刻で大きな問題と無関係とは言えないと思われまます。

このような現状を踏まえて国は、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を平成20年3月に定め、それを受けて県も『子どもが自主的に本に親しみ、みんなで読書を楽しむ環境づくり』を基本目標に掲げて「元気ふくいっ子読書活動推進計画」を平成22年3月に策定しています。

鯖江市では、平成18年3月に「鯖江市子どもの読書活動推進計画」を策定し、その計画に沿って、さまざまな子どもの読書活動を推進してきました。その結果、学校、図書館などの公的機関と多くの市民ボランティアが連携して子どもの読書活動を支援する体制を整えることができました。

しかしながら、この計画策定から5年が経過しましたので、子どもたちを取り巻く環境や読書推進活動の現状と課題などを改めて整理し、新たな「鯖江市子どもの読書活動推進計画」(第2次)を策定します。

### 2 計画策定の基本的な考え方

家庭・地域・学校・図書館等それぞれの場所で読書活動を推進するに当たり、次のことを基本的な考え方とします。

#### ア 家庭での読書推進

保護者が読書の習慣を持っていると、子どもは読書を自然な行為ととらえて、本に親しむようになり、本を媒介として心を通わせることの喜びも経験

します。保護者に家庭での読書の重要性を理解してもらうことは、子どもの読書活動推進に最も効果的と考えます。

#### イ 読書推進の人材育成

幼稚園、こども園、保育所（園）、学校、図書館など子どもが多くの時間を過ごす教育機関や公的機関で子どもの読書活動を推進していかなければなりません。そのためには推進活動を支える人材の育成を図ることが重要だと考えます。

#### ウ 読書環境の整備

市民ボランティアや保護者会と連携して活動する体制を整備すると共に、関係機関の図書の実充等の環境整備を図ることが重要だと考えます。

### 3 計画実施期間

本計画の実施期間は概ね5年間とし、その後においても継続して計画の見直しを行います。



## 第2部 家庭、地域、学校等における子どもの読書活動の推進

### 1 家庭における活動の推進

《現状および課題》

- テレビ、DVD、コンピューターゲーム等の浸透や生活環境の変化によって子どもの読書時間が減少し、本離れが進む傾向にあります。
- 様々な事情から、家庭における読み聞かせが十分に行われていません。
- 読書を習慣とする大人が少なく、子どもの周りに常に本があるという環境が整っていません。

《具体的な取り組み》

- ◇ 子どもの読書が習慣として身につくよう、読書を推進する機関が家庭、大人、保護者に向けて啓発活動を推進します。
  - ・ 家族みんなで読みあい、読み聞かせする時間を持つ。
  - ・ テレビやゲームの時間を減らすことや就寝前に時間を取り読書の時間を確保する。
  - ・ 家庭に書棚を設置するなど、子どもの周りに常時本がある環境をつくる。
  - ・ 家族が揃って図書館や公民館等の公共機関や書店に出かけて、本に親しむ楽しい機会をつくる。



## 2 地域における活動の推進

### (1) 図書館における活動の推進

#### 《現状および課題》

- 子どもが本と出会い、また親しむ機会をつくるために年齢に応じて、様々な行事や事業を行っています。
- 子どもの読書への興味を喚起するために児童閲覧室にコーナーを設けて、本を紹介しています。
- 子ども向け図書資料を計画的に整備すると共に児童担当司書の配置を行って、子どもに対するサービスの充実を図っています。
- 図書館職員や市民ボランティアの資質向上を目指し、研修会を開催しています。
- 市内小中学校および「かわだ文庫」等団体への貸出に対応できる蔵書の整備が必要です。
- 様々な行事や事業が行われて多くの子どもたちが本に接する機会に恵まれています。今後は図書館内に活動を限定するのではなく、地域や学校へと出かけていく活動が望まれています。

#### 《具体的な取り組み》

- ◇ おはなし会やブックトーク、展示コーナーを充実します。
    - ・ 乳児と保護者を対象とする「あかちゃんと絵本のひろば」\*1を実施します。
    - ・ 1歳から3歳児を対象とする「絵本とよちよち1・2・3」\*2を実施します。
    - ・ 市内幼稚園・こども園・保育所（園）児を対象とする「本との素敵な出会い」\*3を実施します。
    - ・ 幼児・小学生・保護者を対象に「こどものつどい」\*4を実施します。
    - ・ 小中学生を対象とする「ブックトーク」\*5を実施します。
    - ・ 児童閲覧室に特集本コーナーを設け、年数回テーマを決めて本を紹介します。
- \*1 あかちゃんと絵本のひろば＝毎月第3金曜日に鯖江市図書館で行われる手遊びやわらべうた、読みきかせを家族で楽しむ会。
- \*2 絵本とよちよち1・2・3 毎月第3金曜日に鯖江市図書館で行われる手遊びやわらべうた、読みきかせを楽しむ会。
- \*3 本との素敵な出会い 市内の幼稚園・こども園・保育所（園）が希望した日に文化の館が借上げたバスを利用して文化の館を訪問し、読みきかせ会等を楽しむ行事。
- \*4 こどものつどい 毎週土曜日に鯖江市図書館で行われる読みきかせ、折り紙等を楽しむ会。
- \*5 ブックトーク 特定の主題について何冊かの本を紹介すること。

- ◇ 図書館職員や市民ボランティアの資質向上を図るための研修会を継続して開催します。
- ◇ 子ども向け図書資料を計画的に整備します。
  - ・ 市内小中学校および「かわだ文庫」等への団体貸出に対応できる蔵書を整備します。
- ◇ 「学校図書館支援センター」を設立します。
  - ・ 全小中学校を定期的に訪問し、教員と連携し、児童・生徒への読みきかせや読書相談を行います。
  - ・ 教員からの要請に応じ、学習内容に沿った資料の紹介・提示や図書整備等、学校図書館充実の支援を行います。
  - ・ 調べ学習の支援のため、授業に必要な参考図書を貸出できるようにセットで整備します。
- ◇ ホームページ・ブログ・さばとマップ（アプリ）等を活用して図書館蔵書の予約検索を容易にし、また更なる利用を呼びかけます。
- ◇ 障がいのある方には障がいの種類や程度に応じた活動を支援します。
  - ・ 「録音図書」の収集・貸出を行います。
  - ・ 「布の絵本」\*1「さわる絵本」\*2 保有施設を紹介します。
  - ・ 「拡大読書器」を設置し、視覚障がい児やディスレクシアの児童の読書を支援します。
  - ・ 「視覚障害者情報総合ネットワーク（サピエ）」に加入し、点字・音声データ資料の貸出を行います。

\*1 布の絵本＝絵本と遊具の性質を兼ね備えた図書。厚地の布にアプリケを施し、マジックテープやボタンで着脱が可能になっている場合もある。

\*2 さわる絵本＝手で触ってわかり、楽しめるようにした絵本。

## （２）児童館や子育て支援センター、地区公民館における活動の推進

### 《現状および課題》

- 児童館において、週一回程度読み聞かせを実施しています。
- 児童館の図書コーナーに適宜、書籍の補充を行い充実を図っています。
- 子育て支援センターを中心とし、幼稚園・こども園・保育所(園)入園前の子どもを持つ保護者に対して、読書を通した子と親の触れ合いの大切さについて啓発を進めています。
- 地区公民館や児童館には、図書室があっても読書活動にかかわる職員がいませ

ん。地区公民館や児童館の活動の中で子どもの読書に対する理解を深め、体を動かして遊ぶ子どもたちに短時間でも読書をする習慣が身につくよう、地域ぐるみで取り組むことが求められます。

#### 《具体的な取り組み》

- ◇ 本と出会い、読書の楽しさを知る機会をつくります。
  - ・ 児童厚生員や地域のボランティアによる読み聞かせ会を実施し、親子で読書に親しむ機会をつくります。
  - ・ 児童館や公民館で本市に伝わる民話など、身近なお話を紹介する会を開催します。
  - ・ 図書館との連携を図って、団体貸出を受けるなど、子どもたちの求める本を児童館等で手に取れる体制を作ります。
- ◇ 読書活動の啓発を行います。
  - ・ 地区公民館等の広報紙を活用して、家庭での読書活動の啓発を行います。
- ◇ 子どもを取り巻く大人への支援を行います。
  - ・ 児童厚生員の読み聞かせ技術向上のため、研修会等の情報を提供します。
  - ・ 保護者向けに読書の重要性を啓発する講演会等を開催します。

### (3) 民間団体等における活動の推進

#### 《現状および課題》

- 「さばえ図書館友の会」は図書館が実施する「こどものつどい」や「本との素敵な出会い」にボランティアとして参加しているほか、機関紙「友の会たより」を毎月発行して、図書館の行事案内や新刊案内など読書に関する情報を発信するなど、多彩な活動を展開して読書活動を推進しています。
- 「かわだ文庫」は河和田地区を中心に幅広い読書推進活動を行っています。
  - ・ 「かわだ文庫」は保有する蔵書に加えて図書館からの団体貸出も利用し、地区公民館の一室で毎週土曜日に文庫活動を実施しています。
  - ・ 小学校や保育所（園）で、読み聞かせやブックトークを実施しています。
  - ・ 「子どもゆめ基金助成金」\*の活用による「子ども文庫」の充実を図っています。
    - \*子どもゆめ基金助成金 子どもの健全育成の推進を目的とした、子どもの読書活動の振興を図る活動などへの国の助成金で、「さばえっこ図書ボランティアネットワーク」もこの助成金を得て、活動しています。

- 「さばえっこ図書ボランティアネットワーク」は学校や図書館と連携して子どもと本をつなぐ活動を行っています。
  - ・ 小学校での「朝読」や学校図書館の充実のための活動を行っています。
  - ・ 講演会や研修会などを実施して、読み聞かせ技術などの資質向上を図っています。
  - ・ 子どもの読書活動に携わる人たちや新たに活動を始めようとする人たちへの研修会等の情報を提供しています。
- 子育て支援ネットワーク委員会は各地区公民館を会場に、子どもと親を対象に絵本の読みきかせイベントを開催しています。
- ボランティア、市民団体等が「布の絵本」「さわる絵本」を作成して、障がいのある方の読書活動を支援しています。

#### 《具体的な取り組み》

- ◇ 現在活発に行われている「さばえ図書館友の会」「かわだ文庫」「さばえっこ図書ボランティアネットワーク」「子育て支援ネットワーク委員会」等、市民ボランティア団体がそれぞれ取り組んでいる活動を継続し、更に充実させていきます。
- ◇ 青少年健全育成市民会議や各地区の青少年育成協議会に読書活動推進を働きかけていきます。
- ◇ P T A活動の中に読書啓発事業を組み入れて、積極的に推進します。

### 3 学校等における活動の推進



#### (1) 小中学校における活動の推進

##### 《現状および課題》

- 平成 22 年度に学校図書館支援員が 2 校に 1 名配置され、学校図書館の整備や読み聞かせ、調べ学習のための参考図書の紹介など様々な活動が行われて、学校図書館の機能が充実しました。
- 学校図書館の蔵書数が標準冊数達成率小学校 84%、中学校 110%になりました。
- 12 学級以上の学校には、司書教諭が配置されています。
- 保護者や地域のボランティアが「朝読」などで読み聞かせを行っています。
- 学校と図書館との連携が進み、図書館支援員\*1 が学校を定期的に訪問してアニ

マシオン\*2やブックトークなどを行っています。

\*1 学校図書館充実のため、図書館から職員が学校に出向き支援を行う。

\*2 アニマシオン 読む力をひきだす手法、例えば登場人物がどんなことをしたかをわざとまちがえたものを示したり、話したりして読者の興味をそそる方法がある。

- 全小中学校で全校一斉読書活動が実施されています。
- 児童生徒の各発達段階において読書に親しむ態度を育成し、読書の習慣を確立することが必要とされています。
- 学校図書館の蔵書数が標準冊数に至る学校が増えてきている現状を踏まえ、今後は良書についての意識の啓発と廃棄本の共通理解を図ることが求められています。

#### 《具体的な取り組み》

- ◇ 読書の楽しさを味わう体験を読書習慣に結びつけるため、読書指導を充実します。
  - ・ 全校一斉読書タイムや読み聞かせなどの読書活動を充実させます。
  - ・ 学校図書館や図書館と連携して、図書資料を活用した授業を実施します。
  - ・ 保護者や地域の人材を活用した読み聞かせ、ブックトークなどボランティア活動を推進します。
  - ・ 図書館支援員との協働によって児童生徒による図書委員会活動を活性化します。
  - ・ 読書活動を中心にした学校間の交流を図ります。
  - ・ 国語科研究部会と学校図書館研究部会、また司書教諭の連携によって推薦図書を選定と活用を行います。
  - ・ 「こども読書の日」「読書週間」を核とした読書活動啓発運動を推進します。
  - ・ 教員や図書館支援員によるブックトークを実施します。
- ◇ 子どもが読みたい本をすぐに手に取れ、また静かに本の世界に浸れる充実した読書環境づくりに努めます。
  - ・ 学校図書館の施設整備や蔵書の充実を行います。
  - ・ 家庭で眠る図書の掘り起こしなどによって、学級文庫を充実します。
  - ・ 学校図書館間のネットワーク化を進めて、学校間貸出の活性化に努めます。
- ◇ 保護者など大人の読書に対する意識の高揚と指導力の向上を図ります。
  - ・ 図書館と連携して、学校図書館の整備、読み聞かせやブックトーク、選書についての研修を行います。
  - ・ 読書活動への先進的な取り組みに関する情報交換会や研究協議会を開催します。



- ・ 読書に関する指導力や読み聞かせ、ブックトークなどの技術向上のための研修会などに積極的に参加します。
- ・ 保護者の読書に対する意識向上のための講演会を開催します。

## (2) 幼稚園・こども園・保育所（園）における活動の推進

### 《現状および課題》

- 乳幼児期から発達段階に応じた絵本の読み聞かせや紙芝居を実施しており、絵本の好きな子どもが増えてきています。
- 絵本コーナーの設置や展示を工夫し、いつでも絵本を手にとることができる環境づくりが進められ、子ども自らが絵本を選択するなど積極的な姿が見られます。
- 保護者や地域ボランティアによる読み聞かせを実施しています。保育者とは一味違った感覚で、子どもたちはほのぼのとした絵本の世界の広がりを楽しんでいます。
- 「絵本だより」を発行して、お薦め絵本の紹介や読み聞かせの効用などを掲載して保護者の啓発をすすめています。
- 絵本で遊んだり見たりすることが多くなり、本の傷み（消耗）も激しくなっています。本の取り扱い方をきちんと指導していく必要があります。また、更なる絵本の充実を図っていきます。
- 保育者がより良い読書活動を推進するために技術向上のための研修が必要とされています。

### 《具体的な取り組み》

- ◇ 絵本や物語の楽しさと出会う多様な機会を提供し、読書習慣の確立を図ります。
  - ・ 保育者だけでなく、地域や保護者による読み聞かせボランティアを受け入れて、絵本の読み聞かせや紙芝居等を積極的に行います。
- ◇ 保護者など大人の読書意識高揚のための取り組みを行います。
  - ・ 保護者向けの講演会や絵本だより発行等により、読書の重要性を啓発します。
  - ・ 保育者の読み聞かせの技術向上のための研修会等への参加を積極的に促します。



## 4 関係機関と団体の連携・協力の推進

### (1) 図書館、学校、民間団体等の連携等

#### 《現状および課題》

- 図書館、学校、民間団体等が連携・協力した取り組みを推進しています。
- 図書館、学校、さばえっこ図書ボランティアネットワークの情報交換会や研修会を開催しています。
- 教科書に掲載されている作品や文献、関連資料等を図書館が整備を進め、団体貸出を行っています。
- 図書館職員が全小中学校を定期的に訪問し、学校図書館充実の支援を行っています。
- 「本との素敵な出会い」に市内すべての幼稚園・こども園・保育所（園）へと参加が拡充しています。
- 中学2年生の職場体験学習として、毎年各校数名が図書館で働くことを学んでいます。
- 図書館が子どもの発達段階に応じた推薦図書リスト「おすすめあかちゃん絵本」等を作成して、幼稚園・こども園・保育所（園）等へ配布しています。
- 図書館、公民館、児童館、学校、幼稚園・こども園・保育所（園）、子育て支援センター、青少年健全育成鯖江市民会議、民間団体等の連携・協力が必要とされています。

#### 《具体的な取り組み》

- ◇ 保育所（園）等で保護者が集まる機会を利用して、「子どもの読書に関する研修会」を開催します。
- ◇ 図書館に「学校図書館支援センター」を核として、学校図書館の支援を行います。
  - ・ 図書館職員が定期的に学校を訪問して、学校図書館の充実を支援します。
  - ・ 授業に必要な参考図書をセットで整えて学校に貸出し、調べ学習の支援を行います。
  - ・ 全幼稚園・こども園・保育所（園）児をバスで文化の館に招待する「本との素敵な出会い」を市民ボランティアと協働して、更に充実させます。

- ・ 子どもの発達段階に応じた推薦図書リスト「おすすめあかちゃん絵本」等を作成して、幼稚園・こども園・保育所（園）・公民館等へ継続して配布します。
- ◇ 図書館、学校、民間団体等が連携・協力した取り組みを推進します。
- ・ 各種団体が児童と共に図書館に出向いて、1日図書館職員体験事業を実施します。
  - ・ 図書館、学校、民間団体等の情報交流を促進します。

## （２）推進体制の整備

読書計画の推進状況の把握や、関係者間の連携の具体的な方策について検討する組織として、市、図書館、学校、民間団体、青少年健全育成鯖江市民会議等からなる「鯖江市子ども読書活動推進会議」を設置します。

